

宮古教育事務所便り

第128号

令和7年

10月30日(木)

宮古の風

～ 新しい風は東から ～



秋、実りの季節となりました。管内の多くの学校では、学習発表会・文化祭が開催されました。子どもたちはこれまでの学習の成果を堂々と披露し、達成感をもって終えたことと思います。先生方のご指導に感謝いたします。
文責：田口

子どもを主語にした学びの実現に向けて



令和7年度「授業力ブラッシュアップ事業」授業改善研修

宮古教育事務所事業の重点である「宮古がやるべき教育の推進」における「一人ひとりの可能性を伸ばす学びの充実」について、「授業力ブラッシュアップ事業」が下記の教科・領域で行われました。

【小学校算数】



9月3日(水) 宮古市立津軽石小学校を会場に、管内小中学校の教員 22名が参加して開催しました。プロジェクトメンバー4名には、「数学的に考え、表現できる児童生徒の育成～個別最適な学びを重視した授業改善を通して～」をテーマに、授業づくりに取り組んでいただきました。提案授業の授業者は、津軽石小学校 武田 健吾 教諭、メンバーは、田野畑小学校 菊池 野々花 教諭、第二中学校 綾織 健也 教諭、崎山小学校 小菅 智佳 教諭 でした。学習リーダーが課題作りの進行を務める姿、課題解決場面では自力解決の後に、フリーワークの時間が設定され、学習者が学習形態を選択して課題追及をする場面が展開されました。グループで考えを交流した児童の中には、話し合いによって自分の考えを調整する姿が見られました。

ただ委ねるだけでなくフリーな時間でも自力で学ぶことができるよう、自己調整の方法をしっかりと身に付けさせてきた成果だと思います。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指すブラッシュアップメンバーの意図が明確に表れた授業提案をいただきました。

【小学校特別活動】

9月25日(木) 宮古市立鉾ヶ崎小学校を会場に、管内小中学校の教員 23名が参加して開催しました。プロジェクトメンバー4名には、「よりよい合意形成をとおして、自発的・自治的に実践できる児童生徒の育成」をテーマに、授業づくりに取り組んでいただきました。提案授業の授業者は、鉾ヶ崎小学校 村上 貴史 教諭が務め、授業づくりには、重茂中学校 杉浦 望 教諭、新里小学校 浦嶋 宏一 教諭、千徳小学校 福德 文子 指導教諭 がプロジェクトメンバーとして一緒に取り組みました。子どもたちが議題を自分事ととらえるためのアンケートの活用や学級目標の振り返り、合意形成のために相手意識を持つ心情面と手法を教える技能面双方からの指導、計画委員会への事前指導や前提条件の提示、思考の流れを見える化するICTの活用など、児童が主体的に学級会を進める姿から研修者が学びを深める機会となりました。



【中学校外国語(小中をつなぐ外国語教育推進研修会)】



9月30日(火) 岩泉町立岩泉中学校を会場に、管内小中学校で外国語・英語を担当する39名の教員が参加しました。プロジェクトメンバー4名には、「小中のつながりを意識した「書くこと」の指導のあり方」をテーマに授業づくりに取り組んでいただきました。提案授業の授業者は、岩泉中学校 渡邊 啓将 教諭、授業づくりのメンバーとして、千徳小学校 中村 邦丸 教諭、川井中学校 畠山 華枝 教諭、山田中学校 須藤 亜希子 指導教諭が務めました。小学校で学んだことを活かして、「コミュニケーションを行う目的・場面・状況」を明確にすること、書くことへの抵抗感を減らすために間違いやすい事例の提示など、生徒が主体的に書く活動に取り組むための授業展開を提案していただきました。さらに演習では、思考・判断・表現を正しく評価するための問題づくりに取り組みました。

各教科・領域とも、モデル授業公開まで4～5回の研修会を重ねました。児童生徒一人ひとりの可能性を伸ばす素晴らしい授業をして下さったプロジェクトメンバーの先生方、大変ありがとうございました。

宮古地区読書ボランティア研修会

10月7日(火)宮古地区合同庁舎を会場に、学校図書館支援員や読書ボランティア、公立図書館職員等24名の参加のもと、これからの読書活動に求められていることについての理解と資質向上を目的とした標記研修会を行いました。

「大人の絵本時間～人生と旅する絵本～」と題して、講師として絵本セラピスト 金浜順子氏をお招きしました。絵本の魅力やよさについて、学ぶ時間となりました。その後の情報交流では、お気に入りの絵本や読み聞かせの仕方について、グループで交流しました。



～参加者の感想～

- ・いつもは読み聞かせをする側なので、絵本を誰かに読んでもらうのは、とても心地良かったです。情報交流では、お気に入りの絵本を紹介し合い、読み聞かせに対する意欲の向上につながりました。
- ・これまでの子育てや読み聞かせを振り返りながら参加できました。大人になっても、読む年代、これまでの経験などにより、より深く楽しませてくれたり癒したりするのが、絵本の魅力と感じました。

絵本の読み聞かせが、管内各小中学校で行われています。絵本のよさや魅力がさらに広がり、読書の入り口になったり豊かな心の醸成につながったりすることを願います。

宮古地区家庭教育・子育て支援ネットワーク研修会

10月23日(木)には、「保護者や子どもの居場所づくり」をテーマとした標記研修会を行いました。保育士の方や家庭教育支援関係者等、25名にお集まりいただきました。

宮古市家庭教育支援チーム『みやこっこ』八島彩香氏、NPO法人『なないろ』高橋理奈氏から、「地域と家庭をつなぐ役割」と題して、各団体の取組について発表していただきました。

その後、盛岡大学短期大学部 教授 大塚建樹氏から「子ども家庭支援における地域資源の活用」と題して、家庭支援の歴史的な背景について学ぶ時間となりました。



～参加者の感想～

- ・『みやこっこ』や『なないろ』の発表を通して、親子支援や子どもの居場所づくりに取り組んでいる具体的な事例について知ることができました。地域全体で子ども達の成長を支えていくことが重要であると感じ、本日の発表内容を職場内で共有したいと思います。
- ・大塚教授の講義では、ご自身の経験を交えながらお話いただき、自分の子育て期と重ね合わせながら聞かせていただき、今後の子どもへの接し方を見直す機会とすることができました。

「『少子化だからこそ親への支援が必要』の言葉が印象に残った」の感想を多くいただきました。保護者の多様な学びのニーズに対応するためには、地域の家庭教育団体等と連携することが重要です。

文部科学省では、家庭教育に関する情報提供を行っています。右記の二次元コードからぜひご覧ください。



文部科学省 HP

家庭の教育力の向上